

[001] 奥田八二日記研究会会報

<https://hdl.handle.net/2324/1916250>

出版情報：奥田八二日記研究会会報. 1, 2018-03-31. 奥田八二日記研究会(九州大学大学文書館内)
バージョン：
権利関係：

【発刊の辞】

研究会会報創刊に寄す

福留久大

奥田八二先生（おくだはちじ、1920.11.1－2001.1.21）は、長年月にわたる、かつその間の相当の時期において複数の克明な日記・日録を残している。先生が、1942—43年は学生として、1946—50年は院生として、そして1950—82年は教師として、九州大学に在ったことで、その日記・日録は九州大学の歴史を探る貴重な資料と成り得る。さらに、1983—96年は、福岡県知事の職にあったことで、福岡県下の自治体活動の諸側面を知る手掛かりを提供するものでもある。そういう事情を重視した人々の間で、奥田幸（みゆき）夫人から九州大学へ日記の寄贈を受け、その翻刻と解説を目指す研究会の発起が試みられた。

2016年3月に発足した奥田八二日記研究会は、三つの構成要素から形成されていると思う。順不同で、一つは、折田教授・藤岡准教授をはじめとする九州大学文書館関係者。研究会の中心的発案者は折田さんであり、文書館の方々が事務局を担っている。九大を含む地域史研究の縁で、法学部OBの山田・篠原の若手研究者二人が加わっている。二つ目は、葦水忌実行委員会関係者。奥田知事の秘書を務めた人々が、奥田氏の命日の1月21日に氏を偲び現代を問う集いを葦水忌として開催してきた。この人々は、実務能力に長けており、県職労を含む県庁関係者の間に広い人脈を有している。森山・橋本の御二人が軸になり、その縁で奥田知事時代の労働組合関係者として橋口・山本氏が、報道関係者として大西氏が研究会に加わっている。三つ目は、九州大学で奥田先生と交友の機会を得た人々。顧問に就任して頂いた徳本先生は1955年以来、河野先生は1960年以来、奥田先生の同僚として、或いは弟子として親密に接してこられた。福留は1970年の九大教養部経済学担当講師就任以後、斜め向かいの研究室仲間として指導に与った。奥田先生が高教組の共同研究者として熱心だったことから福留も高教組の人々と知り合い、その縁で日本史教員である今橋氏の参加も得られた。この点では、奥田先生の知事就任とともに社会問題研究所所長を引き継がれた衣笠哲生先生の参加が不可欠であるが、体調不順のゆえにそれが叶わないのが残念である。

そのような構成で出発した研究会で、討議し解明した問題、発掘した資料などの記録の場として、ささやかながら会報を創刊することになりました。三つの要素が融合して興味深い報告が出来ることを祈念する次第です。（2018年2月24日）